



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	公益財団法人 北海道労働保健管理協会 新健診センター	階数	地下1階 地上5階
建設地	白石区本郷通3丁目南27-1、-2、-3ほか	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域、33m高度地区、下水道処理区域	平均居住人員	260 人
建物用途	病院	年間使用時間	2,880 時間/年(想定値)
竣工年	2022年11月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	4,118 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2021年8月15日
建築面積	1,335 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	6,120 m <sup>2</sup>	確認日	2021年8月15日
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.8** ★★★★★★ A

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 75%  
③上記+②以外のオンサイト手法 75%  
④上記+オフサイト手法 75%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 4  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.70

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b> 既存の健診センターに渡り廊下で増築することで、来訪者が快適に利用でき、医療従事者や協会職員が働きやすい施設を目指す。また、社会情勢の変化に対応できる長寿命で柔軟性の高い施設とする。</p>	<p><b>A 省エネルギー</b> 冷暖房にヒートポンプ式を採用。凹凸のない平面形状と過剰な開口部を避けることで断熱ロスを抑える。</p>
<p><b>B 省資源等</b> 3棟の既存建物すべて解体するのではなく1棟を残し改修して渡り廊下増築棟と接続することで、資源を有効活用する計画とした。</p>	<p><b>C 緑化</b> 交差点に面した角地を空地とし、既存樹木と新規樹木による緑化を行う。</p>
	<p><b>D 雪処理</b> 建物は十分な高さのパラペットをもつ無落雪屋根とし、駐車場や歩道部分は除雪の容易な形状とし、敷地内に堆雪できる計画とする。また、アプローチには庇を設置し、身障者用駐車場は10m以内とするなど、利用しやすさに配慮した計画とする。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

**CASBEE札幌2016(ver.1.4)**  
**公益財団法人北海道労働保健管理協会 新健診センター**

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)  
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.40	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>			<b>3.0</b>	0.15	-	-		<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル			<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音			<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	-	-		
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-		
1.3 吸音			<b>3.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>			<b>3.0</b>	0.35	-	-		<b>3.0</b>
2.1 室温制御			<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 室温			3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御			<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>			<b>2.0</b>	0.25	-	-		<b>2.0</b>
3.1 昼光利用			<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光率			3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-		-		
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策			<b>2.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御	省エネ		2.0	1.00	-	-		
2 映り込み対策				-		-		
3.3 照度			<b>2.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御			<b>1.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>			<b>4.5</b>	0.25	-	-		<b>4.5</b>
4.1 発生源対策			<b>5.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全ての建材で☆☆☆☆	5.0	1.00	-	-		
4.2 換気			<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 換気量		換気量は30m <sup>3</sup> ・h	4.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理			<b>5.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				-		-		
2 喫煙の制御		全体が禁煙となっている	5.0	1.00		-		

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.4	
<b>1 機能性</b>			<b>3.7</b>	0.40	<b>1.0</b>	1.00	<b>3.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	広さ・収納性			-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>5.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	1.00	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	-	-	
2	リフレッシュスペース			-	-	-	
3	内装計画	健診エリアは心が落ち着く色調とし、事務エリアは機能・快適性を重視した内装とすることを発注者との協議を経て計画	5.0	1.00	1.0	1.00	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	健診エリアは防汚性の高い床材と耐久性の高い壁材を使う	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.2</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>4.1</b>	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		-	-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.25	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	4.0	0.13	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	5.0	0.13	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	5.0	0.25	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	4.0	0.25	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.4</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	EHPは系統は分けている	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水、受水槽二槽式、受水槽に緊急水栓設置	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		3階までは隣接既存建物に合わせた4m以上の階高さ	4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		ラーメン構造による自由度の高い執務空間	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40			
1 空調配管の更新性			3.0	0.25			
2 給排水管の更新性		構造部材を傷めずに更新できる。(PS内に設置)	4.0	0.25			
3 電気配線の更新性			3.0	0.13			
4 通信配線の更新性			3.0	0.13			
5 設備機器の更新性			3.0	0.25			
6 バックアップスペースの確保			-	-			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			<b>-</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	<b>緑化</b>		<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	<b>緑化</b>		<b>3.0</b>	0.40			<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	<b>雷処理</b>		<b>3.0</b>	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>3.0</b>	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			<b>-</b>	-			<b>3.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			<b>-</b>	0.40	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	<b>省エネ</b>	BPI=0.7	<b>5.0</b>	0.20			<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	<b>省エネ</b>		<b>3.0</b>	0.10			<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	<b>省エネ</b>	[BE][BEIm] = 0.70 -	<b>5.0</b>	0.50			<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20			<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00			
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50			
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>		3.0	0.50			
集合住宅の評価				-			
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>			-			
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>			-			
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			<b>-</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20			<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60			<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減	<b>省資源</b>		2.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用	<b>省資源</b>	既存建物の内部改修し渡り廊下で新築と接続	5.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	-	3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	エクステリア(デッキ)	3.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材	<b>省資源</b>		-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	<b>省資源</b>		3.0	0.22			

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		-	-	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	1.00	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	省資源	機器寿命の長く高効率なEHPを主冷暖房としているため	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>	省資源	燃焼機器を使用していない	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>	省資源 悪化 雪処理		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	札幌市の雨水流出抑制の基準を満たしている。 (対策量:38.7m3)	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		現状と同じ位置とし、まとめて駐車場を計画し、交通誘導員による安全確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.8	BEEランク	A
建物名称	公益財団法人 北海道労働保健管理協会 新健診センター				
建物用途	病院				
延床面積	6,119.7 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★☆☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー ( 最高点 23.1 最低点 6.6 )		合計		19.2点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 ( 最高点 23.8 最低点 8 )		合計		16.9点 /23.8点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.1 /1.4	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.9 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.7
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	3.2 /4.4
C 緑化 ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		合計		9.2点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 ( 最高点 3.0 最低点 0 )		合計		1.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数